

農村開発・環境保全

イオン環境財団助成事業の代替地クロッド村から、苗木の成長を示す写真報告が届きました

94号でお伝えのように、代替事業地が決まったのは6月末でした。本来4月に実施の受益者決定を含めて、研修、苗木購入などすべてが遅れ気味だったクロッドの事業ですが、今回届いた写真報告によると、各苗木ともにしっかり根付いて、道路沿いに植えた在来種苗木ナブルには新芽が認められます。

本事業は、対象地区の変更と現地パートナーPFPの事業担当者交代というこれまで経験したことのない事態の中での実施となりましたが、農業専攻の元奨学生ボニファシオの迅速で適切な代替地選抜や、その後の現場での住民指導により、現時点では出遅れ分を挽回できています。以下、写真報告の一部です。



受益者ロヘリオさんのアボカドの苗（左）と、アンナさんのラムブタンの苗の生育ぶりをチェックする農業専門家ボニファシオ

接ぎ木によるカラマンシーの苗（左）にはすでに2個の果実が、在来種ナブルの苗（上）も活着を示す新しい葉数枚が認められます。

次年度のポルル村「モデル農場」事業の成否のポイントは「研修」

昨年6月末に終了した緑の募金交付金事業の成果に手ごたえを感じて、もっと多くの住民にこのアグロフォレストリー技術を伝えたいと、モデル農場作りを計画している農業技術者ボニファシオから、種子代だけでも、という支援要請（関連記事P1）がありました。次年度は、従来のような助成金を受けてのアグロフォレストリー事業は実施せずに、過去の事業に関する評価活動に限定したいという当団体の方針を現地には伝えてあったので、新規事業に当たるモデル農場に関しての支援要請は控えめに配慮したようです。

このモデル農場計画は、昨年8月に当団体の各事業地域を訪ねて、進捗状況をモニターした長瀬アガさん（当団体アドバイザー・ボランティアスタッフ）のアドバイスに基づくものです。昨年暮れの事務局でのアガさんとの各種打ち合わせの折に、この小規模事業に関する支援についても、特に次年度予算に関連して意見交換をしました。

「モデル農場事業においても、理念や技術を学ぶ研修がカギとなる。多くの住民に、継続して参加してもらうには、従来の助成金事業でも自己資金で対応していた研修生への昼食提供、食材費支援を、今回も予算に含めた方がよい」という話になりました。お米代程度の支援になると思いますが、充実した研修、特にモデル農場での実地研修を通じて、より多くの住民が持続可能な収入源を得て、すこしずつ豊かになることを願っています。

ブルサロ村の教育・農村開発事業 — 村会議員2期目の元奨学生スヌーリアの報告と支援要請 —



警察官を講師に招いて実施された村主催の麻薬撲滅の研修会

私たちの事業パートナーは、教会をベースにしたCMIPを含めて、COWHED、PIHS、PFP、SCMSIのような市民組織、あるいは、私立の学校法人です。村（バランガイ）など行政との関係は、研修講師派遣や安全面などで多少便宜を図ってもらうことはあっても、事業を協働したことはありません。今回は元奨学生で、地元ブルサロの村会議員として、村の教育行政を担当しているスヌーリアから、ドゥテルテ大統領が進める麻薬撲滅に関する研修や給食の写真報告などとともに、予算不足の村の教育や農村開発事業に、HANDSの協力を得たいという要請をうけました。

村唯一の公立小学校の給食は、予算に余裕がある時や、企業の寄付があると実施するということでした。スヌーリアは、アムグオのナバルタビ織研修では女性の組織化には成功しませんでした。行政の場ではビラランの貧困問題を何とかしたいと頑張っているようです。しかし、協力には十分なりサーチが必要で、即対応は難しいと返信しました。